

助産診断技術学Ⅲ

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 遊田 由希子 特任准教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の軽度の異常やマイナートラブルへの助産ケアおよび正常経過を促す助産ケアについて、具体的な状況や事例を通じて、その基本を学ぶ。具体的には、妊娠期のマイナートラブル（便秘、腰痛等）への助産ケア、分娩期の正常経過を促す助産ケア（体位変換、温罨法、産痛緩和等）、産褥期異常時（子宮復古不全、創部痛等）の助産ケアおよび新生児期の正常経過を促す助産ケア（環境調整、育児指導等）について学修する。

・教育成果（アウトカム）

妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期におけるマイナートラブルや軽度の異常事例について、知識を整理し、具体的な状況や事例を体験的に学ぶことにより、妊娠、分娩期の正常経過を促す助産ケアや軽度の異常事例の助産ケアの基本を理解することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4, 5, 7

・到達目標（SBO）

1. 妊娠期における異常事例やマイナートラブルを抱えた事例に対する助産ケアについて説明することができる。
2. 分娩期における異常事例に対する助産ケアについて説明することができる。
3. 産褥期における異常事例に対する助産ケアについて説明することができる。
4. 新生児期における異常事例やマイナートラブルに対する助産ケアについて説明することができる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 4-A 講義室、 (欠) マルチ 3-A 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/7	水	5	成育看護学講座	西里 真澄 講師	<p>妊娠期のマイナートラブルへの助産ケア (グループワーク)</p> <p>・便秘、腰痛、体重増加、妊娠性貧血および骨盤位等、妊娠期に起こりうるマイナートラブルに対する助産ケアについて理解することができる</p>
9/13	火	1	成育看護学講座	西里 真澄 講師	<p>妊娠期における異常時の助産ケア</p> <p>・悪阻、切迫流・早産、胎児発育不全、妊娠高血圧症候群および妊娠糖尿病等に対する助産ケアについて理解することができる</p>
9/14	水	5	成育看護学講座	遊田 由希子 特任准教授	<p>分娩期の正常経過を促す助産ケア (演習・グループワーク)</p> <p>・微弱・過強陣痛および胎児心拍低下事例等に対する助産ケアについて実際の場면을想定した対応ができる。また、対応の場면을 Web カメラで撮影し、ディスカッションを行う</p>
9/15	木	5	成育看護学講座	遊田 由希子 特任准教授	<p>分娩期異常時の助産ケア (演習・グループワーク)</p> <p>・肩甲難産および多量出血事例等への助産ケアについて、実際の場면을想定した対応ができる</p>
9/16	金	3	成育看護学講座	西里 真澄 講師	<p>新生児期の正常経過を促す助産ケア</p> <p>・新生児黄疸、体重減少および体温異常 (高熱・低体温) 事例等に対する助産ケアについて説明することができる</p>

9/16	金	4	成育看護学講座	西里 真澄 講師	<p>新生児期のマイナートラブルへの助産ケア（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつかぶれ、新生児月経、褐色尿および皮膚トラブル事例等に対する助産ケアについて説明することができる
9/20	火	4	成育看護学講座	遊田 由希子 特任准教授	<p>産褥期における異常時の助産ケア（演習・グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮復古不全、創部痛、恥骨離開およびマタニティブルー等について、その経過と必要な助産ケアについて理解することができる
9/22	木	5	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	<p>周産期における軽度の異常事例やマイナートラブルを抱えた対象への助産師の役割（演習・グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定される場面への実践を通じ、必要な助産ケアと助産師の役割について具体化することができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期	我部山キヨ子他 編集	医学書院	2021
教	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期	我部山キヨ子他 編集	医学書院	2021
教	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期	石井邦子他 編集	医学書院	2021

・ 成績評価方法

定期試験 70%、演習への取り組み状況 30%にて評価する。なお、演習への取り組み状況は、演習での主体的・積極的態度、事前準備として課した内容の遂行状況を含み、総合的に評価する。

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、教科書や既習科目の関連資料等をもとに予習した上で講義に臨むこと。講義終了後は教科書や配付資料、ノート等にて復習を行い、次回の講義に臨むこと。各授業に対する事前事後学修時間は最低 30 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

事前、事後課題等については、講義内で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：助産診断・技術学

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影
演習	分娩介助モデルセット	2	演習用
演習	分娩台	2	演習用
演習	DVD	3	演習用
演習	Web カメラ	1	演習用